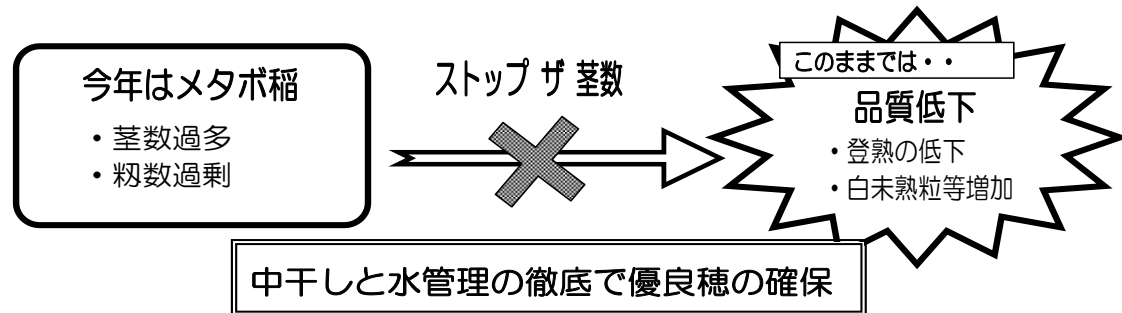


# H27農事メモ(第4号)

平成27年6月 日  
白山石川営農推進協議会  
石川県農業共済組合  
松任市農業協同組合

## 今年の特徴: 茎数が多い



### ○幼穂形成期まで中干しを継続 ～茎数の抑制～

### ○コシヒカリはケイ酸加里の施用 ～穂肥前の体質強化～

3ヶ月予報では7・8月ともに日照時間が少ないと予想されています。幼穂形成期以降、ケイ酸吸収量が増加する、この時期に稲の体質強化と根の健全化を図りましょう。

### ○中干し終了後は、根の健康維持のため通水から徐々に飽水管理に移行

## 水稻の生育状況

5月は、上旬と下旬で平年よりも気温が高く・日照時間も多くなっており、6月も気温が高く経過しています。

平年に比べ、ゆめみづほは草丈がやや長く茎数も多くなっています。コシヒカリは草丈が平年並みですが、茎数は多くなっています。

葉の展開は平年と比べ、早生でやや早く、出穂はゆめみづほが2日程度早まる見込みです。

また、コシヒカリは平年並みの見込みとなっています。

### 【出穂期の見込み(5月連休田植え、6月18日調査)】

品種名	出穂期	減数分裂期 (出穂15～5日前)	主稈幼穂形成期 (出穂25日前)
ハナエチゼン	7月16日頃	7月 1～11日頃	6月21日頃
ゆめみづほ	7月18日頃	7月 3～13日頃	6月23日頃
五百万石	7月20日頃	7月 5～15日頃	6月25日頃
コシヒカリ	8月 2日頃	7月18～28日頃	7月 8日頃
どんとこい	8月 2日頃	7月18～28日頃	7月 8日頃
白山もち	8月 3日頃	7月19～29日頃	7月 9日頃

※出穂期は気象条件で大きく変動するので、今後の情報をご覧ください。

### 《生育に応じた今後の対応方針》

	生育が早い、旺盛な場合	生育が遅い、虚弱な場合
最高分けつ期 (6月下旬頃)	強めに中干しをし、幼穂確認を遅れないようにする。	中干しは弱く(強めの間断かん水の状態) 土壌の乾湿の変化を少なくする。
幼穂形成期	穂肥施用等の出穂期を目安にする作業が遅れないようにする。	穂肥施用等の出穂期を目安にする作業が早めにならないようにする。

## 中干し後は通水、穂肥は生育診断に基づき適切に!

### 当面の栽培管理

#### 1 中干し終了後の水管理 ～通水から飽水管理へ～

○中干し終了後は浅水の通水を実施し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。

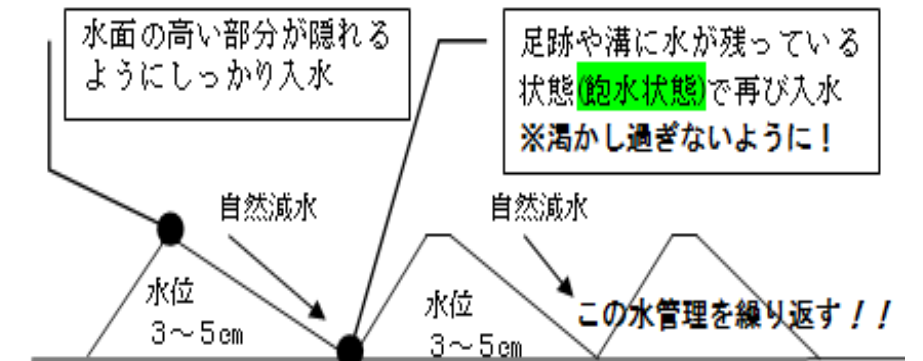
○急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないで下さい。

○幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、通水や飽水管理を行いましょう。

※出穂15～5日前に低温が予想される場合、可能な限り深く湛水し、幼穂を保護する。

※強風やフェーンが予想される場合、急激な蒸散による高温障害等の発生を防止するため、あらかじめ十分に入水しておく。

※飽水状態とは間断通水により、最も少ない時でも田面の足跡や溝に水が溜まっている状態を維持します。



#### 2 肥培管理

(1) 分施肥系の穂肥施用(コシヒカリは次号に掲載予定)

◎施用基準

品種名	施用時期 (幼穂長)	BB有機入松任穂波		葉色
		時期の目安	施用量(kg/10a)	
ハナエチゼン	出穂25日前 (0.5～1mm)	6月20～22日	35	4.0～4.3
ゆめみづほ	出穂23日前 (2～3mm)	6月24～26日	30	4.0
五百万石	出穂18日前 (10mm前後)	7月 1～ 3日	30	4.3
どんとこい	出穂23日前 (2～3mm)	7月 9～11日	35	4.0
白山もち	出穂23日前 (2～3mm)	7月 10～12日	35	4.0

・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。

・葉色が濃く葉の乱れが目立つ・・・基準より5日遅らせ、ゆめみづほ・五百万石は2割減肥。

(2) 追加穂肥の施用について

高温登熟の場合に実施しますが、7・8月の日照時間が少ないと予想されることから夏季気象を見極め次号でお知らせします。

### 3 畦畔・農道等の雑草管理

#### (1) 除草・刈取り処分の徹底

○斑点米カメムシ類の生息密度を抑えるため、6月中旬から雑草がない状態を保ち、7月上旬には仕上げ除草を行う。

○暗色米等の着色粒の防止のため、圃場周辺に枯草が無い状態を保つ。

#### (2) 主な除草剤の特徴

農薬登録上、除草剤ごとに定められた使用する量や回数、時期についてラベルをよく確認し使用する。



除草剤名	抑草期間 (目安)	難防除雑草への効果			散布後の 降雨 (目安)	特徴及び注意点
		スギナ	イボクサ	ギョウ 双ノヒ		
ラウンドアップ マックスロード	50~60日	○	○	○	1時間	・根まで枯らすので効果が持続する ・処理後5~7日間は刈払い・耕起しない ・スギナやツククサは2.5倍液を散布する
バスタ液剤	40~50日	○	○	△	2~3時間	・畦が崩れないので畦畔に有効 ・ラウンドアップと比べて枯れ上がりが早い ・スギナを含め広い範囲の雑草に効果が高い
ブリグロックSL	20~30日	○	○	×	15分	・効果発現が速効的で、低温でも効果が安定 ・薬剤がかかった部分が主に枯れるため、雑草の再生が早い

※違った作物が隣接する場合には、両方に登録のある除草剤を使用して下さい。

※除草剤散布の際は、使用基準を守り、風向きに注意するなど周辺作物に農薬が飛散しないように十分に注意すること。



**カメムシの住み家を無くしましょう！** ~斑点米被害防止対策から~

「今年の斑点米カメムシ類の発生はやや多！」

#### 効果的な防除方法

- ① 6月頃の除草+7月上旬の仕上げ除草の実施
  - ② 出穂期の除草はしない！
  - ③ 出穂後の防除の徹底
- ※ 地域ぐるみの一斉防除を実施しましょう。

「着色粒による検査規格 (目安)」

- 2粒~3粒 (1,000粒中) 混入 ⇒ 2等
- 4粒~7粒 (1,000粒中) 混入 ⇒ 3等
- 8粒以上 (1,000粒中) 混入 ⇒ 規格外



「服装で身を守る」  
保護眼鏡、長靴、  
長袖、長ズボン等



### 4 病虫害防除

#### (1) 基幹防除

○早生品種の粒剤防除体系 (1回目: 出穂前+2回目: 出穂後)

##### 【1回目: 出穂前】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
いもち病、紋枯病、 カメムシ類	イモチエース キラップ粒剤	3 kg	出穂 10~7日前	1回	水深3~5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ

##### 【2回目: 出穂後】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル 粒剤	3 kg	出穂 10~14日後	3回以内	水深3cm程度で散布4~5日間は湛水状態を保つ

#### (2) 随時防除 常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう

○いもち病 ※曇天・日照不足が続くと発生が見られる

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
ブラシン粉剤DL	4 kg	発生時	2回以内	葉色の濃い稲や過繁茂の稲、風通しが悪く昼近くまで朝露がのこる部分に発生しやすい。

○紋枯病 ※前年被害ワラが吹き寄せられる畦際から多く発生、穂ばらみ期以降に急激に上位進展、枯れ上がる。

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンセレン粉剤DL	4 kg	発生時	4回以内	五百万石やゆめみづほ等の早生品種に出やすいので田まわりを徹底する。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンガリット粒剤	3~4 kg	出穂2~ 3週間前	4回以内	水深3cm程度で散布4~5日間は湛水を保つ。使用時期は出穂45日前まで。
撒粉ボルドー粉剤DL	3 kg	出穂14~ 10日前	—	穂に付着すると葉害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。

**農薬散布後の止め水期間は7日間！**

**本田粒剤や水田用除草剤の散布後7日間は落水やかけ流しをしない！！**

作業のポイントのチェック！！

- 幼穂形成期まで中干しをしましたか。□ 穂肥は適期に適量施用しましたか (分施肥体系)。
- 7月上旬の畦畔の仕上げ除草はしましたか。□ 紋枯病の防除はしましたか (常発地・多発地)。

**6月から8月にかけては、農薬散布の機会が多くなります。農薬危害防止に努めましょう！**

- ① 自身の健康管理に留意する、
- ② 子供や周辺住民に配慮する、
- ③ 適正に使用・保管・廃棄する